

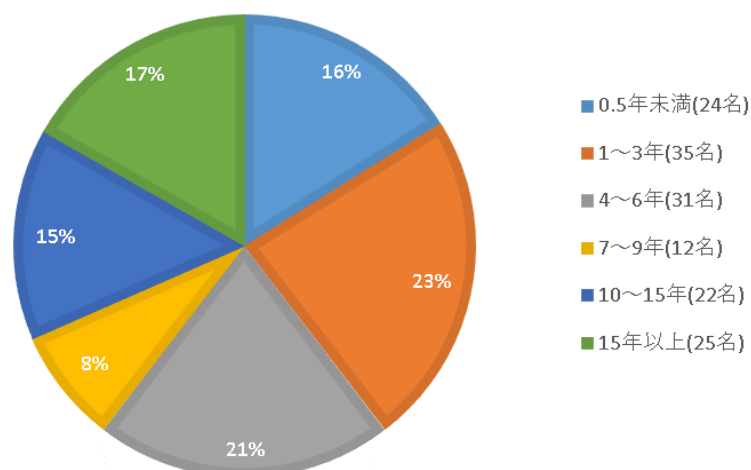
2025 年 愛臨技生物化学分析検査研究班 2 月研究会レポート

アンケート集計結果

作成日：2025 年 3 月 21 日

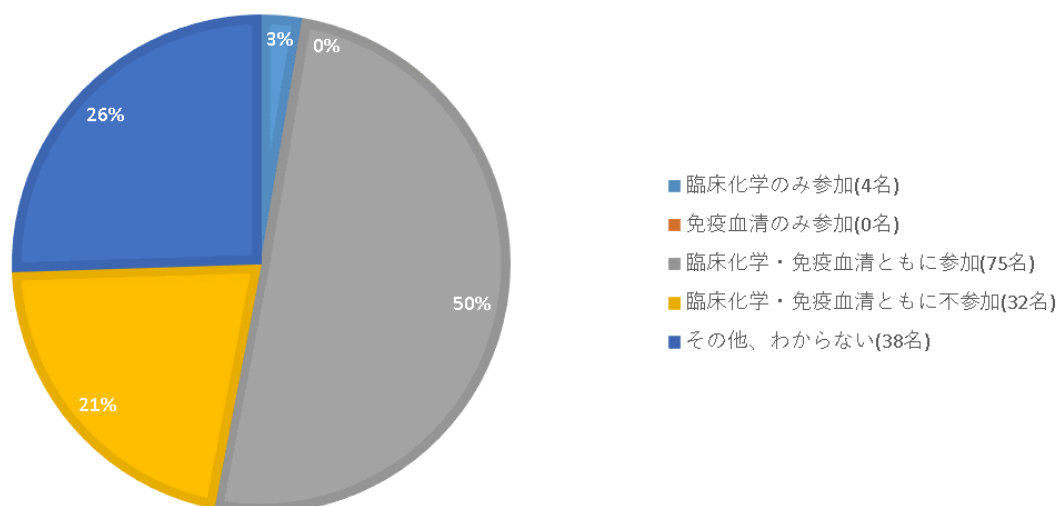
【オンデマンド配信】

アンケート 1)臨床化学・免疫血清検査経験年数



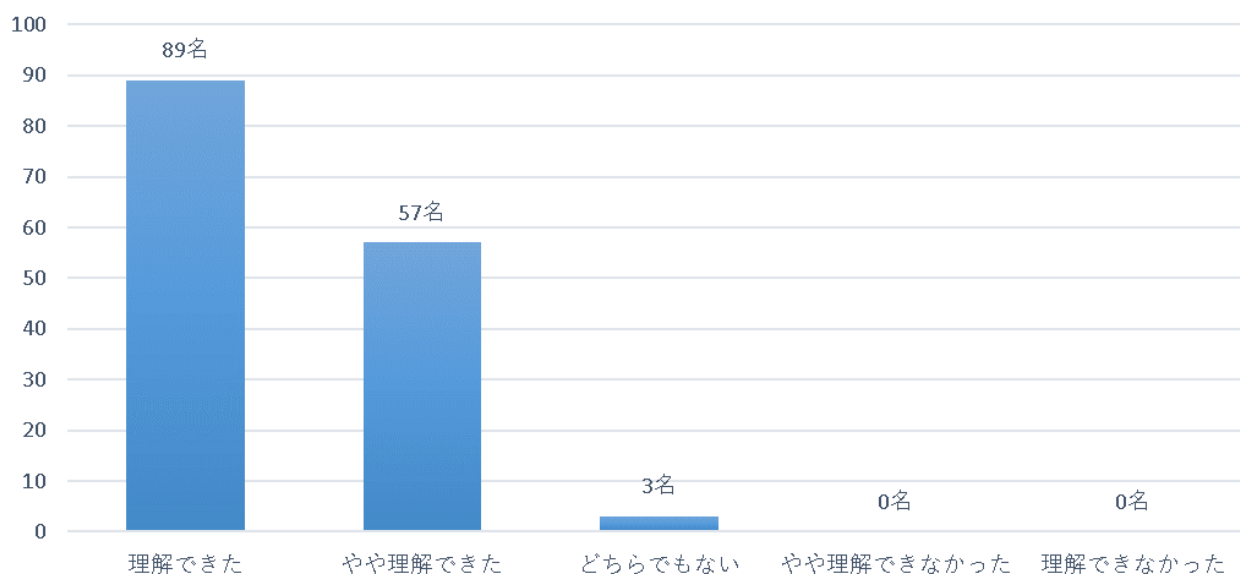
幅広い世代の方にご参加いただきました。今回の研究会は愛臨技精度管理調査報告という事で、中堅～ベテラン世代の精度管理担当者が多く視聴されるものと思われましたが、経験年数 0.5 年未満（未経験を含む）の方も多く、生化学・免疫をはじめたばかりの方にも関心を寄せていただきました。

アンケート 2)所属施設の愛臨技精度管理調査参加状況



今回レポートを提出していただいた方の半数は臨床化学・免疫血清ともにご参加いただいていることがわかりました。また、愛知県技師会に所属していない県外のご施設からも複数、愛臨技精度管理調査にご参加いただいております、有意義な集計になったと思います。

アンケート 3)『令和 6 年度愛臨技精度管理調査報告』の講義に対する理解度



レポート提出いただいた 149 名のうち、9 割以上の方に理解できたとご回答いただきました。

アンケート 4)本研究会のどのような点が役に立ちましたか（一例）

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

☞ 試薬別、方法別の評価が分かりやすかったです。特に腫瘍マーカーにおけるメーカー間差が非常に参考になりました。

☞ HIV 検査についてはイムノクロマト法を採用して数年来評価対象外の評価を受けており、検査も有用性についても疑問が生じ、臨床と話し合いを設けたり、測定方法の変更を考える必要を感じております。免疫の測定装置の買い替えも視野に入れる時期なのですが、項目や試薬の特徴などを機器選択の参考の一助にしたいと思います。

☞ HbA1c に特化したテーマは中々ないので受講させていただきました。血糖と乖離する病態や原因が学べて、非常に参考になりました。

アンケート 5)ご意見・ご感想など(一例)

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

今回頂戴しましたご意見に対し、一部ご回答させていただきます。

ご意見①：免疫血清検査の感染症項目について、院内検査の件数は非常に少なく、当院ではイムノクロマト法を使用して検査を実施しております。イムノクロマト法での内部精度管理方法についてどのように行うべきか、(コントロールを購入する、外注検査で既知の血清を保存して実施、メーカーからの製品保証書？をもらうなど) 施設で採用している方法などの情報がございましたら、研修会を通してご教示いただきたいと思います。

回答①：ご質問いただきましたので当センターで調べました所、イムノクロマト法に対する精度管理は行っていない施設が多いのではないかと分かりました。が、実際のところどうなのか、これでいいのかと不安なご施設のために、生物化学分析研究班は運用に関する研修会を2025年7月に企画しております。是非ともご参加いただき、今回の疑問や日頃の不安を解消する機会にさせていただけたらと思います。

ご意見②：生化学の報告会をはじめ拝聴しました。担当外であっても非常に参考になる内容で、今後もぜひ参加したいと思いました。

ご意見③：自分は埼臨技なので測定においては貴サーベイに参加はしていませんが、グループのサーベイの講評会講師を担当しているのでとても参考になりました。ありがとうございました。

回答②③：ご参加いただきありがとうございました。愛臨技主催の精度管理調査でしたが、他県のご施設や、生化学・免疫血清担当者ではない方からも多く関心を寄せていただきました。他施設・他県の状況を知るいい機会かと思しますので今後ともご参加頂けましたら幸いです。

<まとめ>

2025年2月研究会は昨年に引き続きオンデマンド配信にて実施させていただきました。

事前申し込み222名に対し、149名の方がレポートを提出してくださいました。

愛臨技主催の精度管理調査ですが、他県のご施設の方に多くご参加いただき、役に立ったと多くお声をいただいております。毎年恒例となっている愛臨技精度管理調査報告ですが、このような報告会には2つの役割があると思っています。一つは皆様がよく気になさっている、試薬のメーカー間差や機種間差、方法間差など自施設だけでは分かりにくい精度管理が目に見える形で評価されること。もう一つは外部精度管理の一つとして、その結果を振り返って検討・解釈すること。何を当然のこと…と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、日々忙しく業務をこなしていると、この“振り返る”という行為がなかなか蔑ろにされやすいと感じます。まして報告会のない外部精度管理調査では自施設の評価は手元にあっても、他施設の運用状況までは分からないので比較検討に至らないことが多いのではないのでしょうか。他所がそうしているからうちも…というわけではありませんが、その試薬や測定法が選ばれているのには何か理由があるでしょうし、選択肢としてコレもあるんだと思えることは、見識を広げる意味でも報告会は大いに役立つと思います。皆様の中にも何か一つ、今回の研究会を通して知識や理解が深まったのなら、生物化学分析検査研究班一同大変嬉しく思います。

今後も引き続き、精度管理調査へのご参加に併せて、精度管理調査報告へのご参加をお待ちしております。

以上

作成・回答編集・問い合わせ：生物化学分析検査研究班

(一社) 半田市医師会健康管理センター 臨床検査事業部 臨床化学課

竹内実菜美

TEL：0569-27-7882

E-mail：c3175_takeuchi@handa-med.jp